

1. 何を学ぶか

学校DXは、デジタル技術を利用して教育と学校の運営を改革し、効率的で効果的な学習環境を提供する取り組みである。これにより、教育のデジタル化が進み、生徒がオンラインで個別化された学習を行うことが可能になる。また、教育のアクセシビリティが向上し、地理的な制約や身体的な障壁を克服して高品質な教育を受けられるようになる。さらに、教育の効率性と透明性が向上し、教育プロセスや成果を効果的に追跡・評価できる。これにより、生徒や教師の学習や教育のニーズに合わせたサポートが可能になる。また、新しい学習方法や教育ツールが生まれ、教育の質と多様性が向上する。最後に、学校DXは教育の持続可能性を考慮し、環境負荷の削減や国際的な教育の促進を通じて、持続可能な未来を築くための基盤を整えることができる。



学校にとっての真のDX化とは何なのか？そもそもDX化とデジタル化とは何が違うのか？世の中の多くの方がDX化をデジタル化だと捉えています。この講座では、DX化の真の目的とは何かを考えます。そのために、最初の一步として、学校にとっての顧客は誰なのか？その顧客に高い付加価値をだれよりも早く提供するとはどういうことなのか？そして、関わる人達が幸せになるとはどういうことなのかを考えます。ある工業高校の教師の方達に向けてDXの取り組みを指導している立場から様々な問題が浮き彫りになっています。学校というのは、古いしきたり、慣習を踏襲することが良いことだという考え方に満ち溢れています。これは、本当の意味での温故知新ではありません。真のデジタル化を追求するということは、物事の本質を見極める目を持った人材を育成するということにも他なりません。デジタル化は時間を削減してくれます。しかし、逆に悪い面も知らなければなりません。目的と手段を見失わないようにすることです。デジタルで効率化することで「知る」ことは短時間にできるようになりました。しかし、

「理解する」「行動する」という経験に基づいた教育の本質的な部分が欠落し人間力が低下している現象があちこちで見受けられます。教育現場における真のDXとは何かを皆さんと考え、どのような方法と考え方で進めるべきかを学んで行きましょう。

【内容】

学校DX（デジタルトランスフォーメーション）は、デジタル技術を活用して学校の教育や運営を変革し、より効率的で効果的な学習環境を提供するための取り組みである。これは、従来の教育システムに革命をもたらし、生徒や教職員が21世紀のスキルを獲得し、成功するための準備をするのに役立ちます。学校DXの概要を理解するためには、いくつかの重要な要素を考えることが必要である。

まず、学校DXは教育のデジタル化を促進する。これは、教育プロセスや学習資源をオンライン化し、生徒がインタラクティブで個別化された学習体験を提供できるようにすることを意味する。例えば、オンライン教材や学習管理システム（LMS）を活用することで、生徒は自分のペースで学習し、興味や能力に応じてカリキュラムをカスタマイズできる。

次に、学校DXは教育のアクセシビリティを向上させる。デジタル技術を活用することで、地理的な制約や身体的な障壁を乗り越え、あらゆる生徒が高品質な教育にアクセスできるようになる。リモート学習やオンラインクラスの提供、デジタル教材の配布などが、これを実現する手段となる。

また、学校DXは教育の効率性と透明性を向上させることができる。デジタル技術を活用することで、教育プロセスや学習成果を効果的に追跡し、評価することが可能になる。教師は生徒の進捗状況をリアルタイムで把握し、必要に応じて個別のサポートやフィードバックを提供できる。また、教育行政者は教育プログラムの効果を評価し、政策決定に役立てることができる。

さらに、学校DXは教育の革新を促進することができる。デジタル技術の導入により、

新しい学習方法や教育ツールが生まれ、教育の質と多様性が向上する。例えば、バーチャルリアリティや人工知能を活用した学習プラットフォームが導入されることで、より没入型で効果的な学習体験が提供される可能性がある。

最後に、学校DXは教育の持続可能性を考慮することも重要である。デジタル化により、紙の使用量や交通量などの環境負荷が削減され、より持続可能な学校運営が実現される。また、オンラインリソースの共有や協力により、教育の国際化が促進され、世界中の生徒が異なる文化や知識を共有し合う機会が増える。

総括すると、学校DXは教育の革新と進化をもたらす重要な取り組みです。デジタル技術の活用により、より効率的で効果的な学習環境が構築され、生徒の学習体験と成果が向上する。そして、これによって、21世紀の社会や産業に適応し、持続可能な未来を築くための準備が整えられる。



「デジタル技術を活用して学校を変えましょう」というフレーズを耳にします。これは先ほども述べた、目的と手段を間違えるようにしてしまう危険なフレーズです。

学校DXの目的は、デジタル技術を導入することではありません。将来の日本を担う、世界的に見ても高い学力と人間力を持つ人材を養成することにあるはずです。

理想とする姿を追求した結果、どんな状態になるかを考えます。この考えるというプロセスが重要になります。教員の方と会話していると皆さん、目の前の仕事をこなすことで手がいっぱいになっています。大変忙しく仕事をされています。しかし、この仕事の中身を調べていくと某県の4つの高校では価値がある仕事に取り組んでいる時間の平均は全体の30%もないことが事実としてわかってきました。例えば、日報をつける、報告書を作成する、依頼のためにレポートを作成するなど管理のために多くの時間が使われていることがわかってきました。

ここで考えてみましょう。この管理のためのプロセスに携わる先生の仕事をデジタルを用いて効率化することが良いことなのか、それとも、先生が管理のためのプロセスに携わることがなく別の方法で置き換えることができ、問題が発生しそうなときに先生が

介入するようであれば、普段は、報告書などの作成に追われることも無いわけです。これは、整理整頓にも同じことが言えます。整理というのは、いるものといらないものをわけていらないものを捨てるということです。整頓とは、すぐに手に入る状態をいいます。整理されていない状態で整頓をしてしまうと不要なものまで対象としてすぐに取り出せる状態にしないといけないのでムダな作業が発生してしまいます。

真のDX化というのは、このように本質を見極めた上で何をデジタル化するのかを考えるということなのです。いままでの慣習や習慣を変えることも必要になってくるのです。今までの慣習や習慣を変えることができなければ真のDX化は頓挫します。デジタルツールの導入で終わり、デジタルによって効率化が多少進んだが先生はいつまでも管理のための仕事から解放されないというレベルに留まります。今までの慣習、ルール、制度、これらがDXを阻む最も大きな阻害要因になってきます。

そのためには、科学的に客観的事実を踏まえて、あるべき姿を追求するために、教育現場における共通の価値観とは何か、その中で多様性を追求するために価値のない仕事をいかに見つけて慣習、習慣、ルールを変えるとともにデジタルを活用して学校DXを進めるための方法論を学んでいきます。

- ・ **学校DXの基本概念と重要性**

- ・ **DXが教育分野にもたらす可能性**

2. 学習到達目標

- ① 学校DX（デジタルトランスフォーメーション）について説明できる。
- ② 学校DXは教育のデジタル化を促進するために必要なシステムについて説明できる。

3. 研究課題

- ① 学校DXが目指す主な取り組みとは何ですか？また、それが生徒や教職員にどのような利益をもたらすと考えられますか？
- ② 学校DXにおける教育のアクセシビリティ向上について説明してください。具体的な手段とその効果を挙げてください。
- ③ 学校DXが教育の効率性と透明性をどのように向上させるか説明してください。デジタル技術の活用がどのように教師や教育行政者の役割を変える可能性がありますか？